

# RS ウイルスの予防

RS ウイルスは「かぜ」の原因となる様々なウイルスの中の一つです。

2 歳までにほぼ 100%の子供が RS ウイルスに感染すると考えられていますが、**初感染、特に生後 6 ヶ月以内の新生児・乳児**が感染すると時に重症化して入院したり、人工呼吸器管理が必要になることがあります。現時点では有効な治療法は確立されておらず、入院しても行えるのは対症療法に限られるため、**生後早期からの予防策が何より重要**となります。

これまで利用されてきた抗 RS ウイルスヒトモノクローナル抗体製剤（シナジス）は流行期に月 1 回接種するものでした。2024 年より 1 回投与でより長期間の効果持続が期待できるベイフォータスも利用できるようになっています。これらの薬剤は健康保険の適用（35 週までの早産児、ダウン症候群、肺・心臓疾患や免疫不全がある児）となる場合は乳幼児医療費助成制度により自己負担は少なくて済むのですが、**自費で投与を受ける場合は数十万円の自己負担**が発生するため、実質的には保険の対象とならなければ使用できないことが課題となっています。

RS ウイルス感染による乳児の入院は基礎疾患のない正期産児にも発生しており、特に生後 6 ヶ月以内はリスクが高いため、**RS ウイルスワクチンは厚生労働省から開発優先度の高いワクチンの一つとして位置づけ**られてきました。RS ウイルスワクチンを妊婦に接種することで児の出生早期の感染を予防する「母子免疫」は、2023 年 8 月に米国と EU で承認を受けたのを皮切りに、英国、カナダ、オーストラリアなどの先進国でも次々と開始されており、このたび日本でも国より正式に承認を受けて接種が可能となりました。



今回承認を受けた **RS ウイルスワクチン「アブリスボ」** は、**妊娠 24～36 週の妊婦に 1 回接種**することで、**生後半年までの新生児・乳児の重症な RS ウイルス感染を減少させる**ことができます。ただし、母親から胎児への抗体移行に接種後 2 週間ほどかかるので、**接種後 2 週間以内に生まれてしまった場合は効果が期待できません。**

かつては秋～冬にかけてが RS ウイルスの流行期でしたが、近年は春～夏に流行することもあるので、どの時期に接種するのが効率的かを予測するのは難しいです。

ちなみに、RS ウイルスは 60 歳以上の高齢者でも呼吸器感染症の主な原因の一つであり、インフルエンザや新型コロナウイルスと比較すると感染者数は少ないながら重症化のリスクはより高いことが明らかになってきています。慢性閉塞性肺疾患（COPD）やうっ血性心不全などの慢性の肺・心疾患をお持ちの高齢者も、RS ウイルスによる重症な感染症を減らす目的で接種の良い適応となります。

**1 回 : 32500 円**

**現時点では国や自治体からの接種費用の補助はありません。**

**※ 当院で妊婦健診を受けられている方は、1 回 : 29500 円に割引**